「アキ」（渡辺旭宏）は、すばらしい「息子」

「アキ」こと渡辺旭宏さん（右から２番目）とホストファミリーのコラハンさん一家

日本からダボへ飛行機が到着するたびに、ホストファミリーを引き受ける機会がやってきます。日本からの来訪者の滞在は特別な友情とこれから先、私の家族の一部となる特別な人を残していってくれます。

2004年８月、私にとって一番の息子アキヒロ・ワタナベ（渡辺旭宏）が到着し、すぐに人気者になりました。

－略－

（雨に対する価値観の違いを会話しながら互いに理解したことにより）私は私たちが仲良くやっていけそうであり、もっとたくさんの交流をし、互いの文化や国の違いを共有し合えるとその時思いました。

－略－

今回のような短期間でありながらも私の家族全員がアキを大好きになりました。－略－アキの情熱と生活（人生）に対する理解、彼自身の規律正しさ、そして彼の行動に対する意欲、さらに何かを楽しむための才能は、私たち一家にとって学びの場となりました。

わが家は、美濃加茂市とダボ市に対し、このようなすばらしい機会を与えていただいたことに大変感謝しています。

ダボ市ホストファミリー
マシュー・コラハン

（注）紙面の都合上、コラハンさんのメッセージを一部割愛させていただきました。

派遣生にとって、ダボ市での生活は貴重な体験でした

村瀬さん（左から２番目）とホストファミリーのファーデルさん一家

派遣生の中には、出発する前から、「ダボ市の学校へ早く行きたい！」などと期待に胸を膨らませる生徒もいました。

滞在中は、一般家庭にホームステイしたわけですが、どのホストファミリーも大変親切でした。

一昨年、寄贈した日本庭園はダボ市民にとって誇りのようです。滞在中、市民から気軽に声をかけていただき、日本庭園のことが話題になりうれしかったです。

今回派遣生の長尾君は、加茂農林高等学校の造園科在学ということもあり、日本庭園の手入れを現地の庭園管理者と一緒に行うなど、ダボ市との友好を深めるのに大活躍でした。

その活躍は現地の新聞でも一面に紹介されるほどです。

帰国する際、ホストファミリーに滞日中のお礼を言うと、「お礼を言うのは私たちです。貴重な体験をさせていただきました」と逆にお礼を言われました。

今振り返ってみると、わずか10日間の滞在でしたが、目的を持って行った生徒の成長には、目を見はるものがありました。

言葉や習慣の違う人たちと過ごした彼らの体験は、今後市内の在住外国人との共生についても役立つと思います。

ダボ市派遣団団長　村瀬富美子さん